

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 岡崎市立新香山中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒444-2141  
岡崎市桑原町字大沢 20 番地 86

E-mail sinka@st.oklab.ed.jp

Website http://www.oklab.ed.jp/weblog/sinka/

児童生徒数 男子 251 名 女子 189 名 合計 440 名  
児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 15 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

本校では、総合的な学習を中核として ESD、ユネスコスクールの活動に取り組んでいる。今年度は、校内の組織に新たに「授業研究部会」「総学研究部会」「MDT 研究部会」の 3 部会を立ち上げて、研究に取り組んできた。特に、総合研究部会の活動成果を報告する。

(次ページ参照)

## 部会の取組と活動・成果

## 総合研究部会

### 1 部会の活動内容

新香山中学校で環境学習の研究会が行われたのは6年前になる。その時に作られた総合学習の年間計画は、6年経った今でもスタンダードとして残されている。年間計画を見れば大筋の学習内容や手立てが分かるという利点があるが、新たな学習課題や活動を取り入れにくいというデメリットもある。また、2・3学年の年間計画が2学年で編成されており、各学年で何を学習すれば良いのか曖昧な部分がある。そこで、総合部会として近年中に各学年の総合学習年間計画を編集し直したいという声が上がった。全学年を短期間で編集するのは困難なため、各学年の今年度の総合学習の実践を記録としてまとめておく。ここには環境学習だけでなく、年間の「総合学習」で扱った内容全てを記載する。今年度の記録を見て、来年度の計画を立てる際の参考にしてほしい。

年間計画を再構築する際に、生徒がどのように学び、結果的にどのような資質・能力の形成が図られるかを意識し、①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現のサイクル（学びのサイクル）を明記し、その時間に担う視点を焦点化した。

### 2 各学年の総合学習の概要と今後の課題

#### 1 学年

小学校の学びを想起し、学区の自然環境の変化に着目し始めた。タンポポの外来種・在来種調べを実施し、バイオリージョンマップにまとめた。校外学習で、アクアトトぎふ・自然発見館で環境学習を進めたことで、地球規模の問題へと視野を広げていった。学区の今昔調べを基に、再び自然環境を見つめ直した。秋元様（岡崎市環境政策部環境政策課）をゲストティーチャーに招き、自然を保護することについて学んだ。その後、自然保護派と開発推進派に分かれそれぞれの良さを共有したうえで、共生という考えに辿り着いた。共生社会を実現するために、獣害問題について日浅様（中部猟蹻会）から学び、ササユリについては岡田様、小原様、（岡崎ササユリ会）から学んだ。「自分にできること」として、ササユリ保護活動に取り組む。学習内容に関わる人の思いに触れるたび、心が耕され、「もっと調べたい！何かできないだろうか」と学びが自走しはじめた。

#### 2 学年

1年時の「生態系保全」の学びをつながけながら、本年度は「低炭素社会実現にむけての在り方を考える」をテーマに、1学期は「エネルギー転換部門」、2学期は「産業・運輸部門」、3学期は「家庭部門」についての追究活動を実施した。「エネルギー転換部門」では、発電所の現場学習を基に日本の将来の発電方式について考えをもたせた。「産業・運輸部門」では、エコカーについて、将来普及するかどうか、資料収集活動を通して意見交流の場をもった。「家庭部門」は冬休み期間を通して、自分で立案したエコ生活に取り組みせ、具体的な数値でCO2削減量を求めせ、実感的な追究活動を行った。

#### 3 学年

2年時からの延長で、学年を解体し、「学区清掃」「北斗川」「ササユリ」「ユニクロ」グループに分かれて、それぞれの視点から、CO2を減らすために自分たちができることを考え、実践してきた。活動していくと、学区の環境を維持していくためには、より多くの人の協力が必要なこと、そして地域の人たちに支えられていることに気付いた。そこで資源回収や文化祭時に古着・ペットボトルキャップ回収を呼び掛けたり、細川小学校へササユリの紹介を行ったり、「地域とつながる」ことを意識して活動してきた。生徒たちが卒業後も地域を守り、地域からも愛される人であってほしいと願う。

# 【1年生総合的な学習の時間 年間計画】

「生物多様性に学び、自然環境との共生を目指す新香山プロジェクト」			
日程	学びのサイクル	主な学習内容	課題追究のための手立て
1 学期			
4月21日	I 課題設定	オリエンテーション 「各小学校での学びを振り返ろう」	○奥殿・細川両小学校が入るようグルーピングし、これまでの学びを紹介し合う。
4月28日	II 情報収集	タンポポの在来種・外来種調べ	○学区へ出かけ、タンポポの在来種と外来種を見分けることができるように分布しているか調べる。
5月12日	III 整理・分析	タンポポの在来種・外来種調べをバイオリジョンマップにまとめる	○調べた結果を学級で一枚のマップに落とし、そこから分布の特徴などを考える。
5月19日	IV まとめ・表現	バイオリジョンマップをもとに、外来種の広がりとはどのような特徴があるだろうか	○外来種が広がっているところが、強く人の手が加わっていることを理解する。
5月26日	I 課題設定	外来種は、タンポポの他にどのような動植物があるだろうか	○タンポポ以外の動植物の外来種による影響を個人調べで調べる。
5月31日	II 情報収集	社会見学を通して、多様な生物が共生することの意義を学ぶ	○アクアト岐卓で、実際の生物を見たり、自然発見館で環境プログラムに参加する。
6月2日	III 整理・分析	社会見学のまとめ	○調べてきたことをB4サイズの壁新聞にまとめる。
6月9日	III 整理・分析	社会見学のまとめ	
6月16日	IV まとめ・表現	社会見学のまとめを学級内で話し合う	○まとめた壁新聞を基に、学級内で気づきに対する意見交流をする。
6月30日	IV まとめ・表現	社会見学のまとめを学級内で話し合う	
7月7日	IV まとめ・表現	パフォーマンステスト実施	○1学期の学びが振り返れるようなパフォーマンステストを用意する。
7月14日	I 課題設定	今と昔の違いから見つめる、新香山の自然の変化①	○今昔調べワークシートを準備して、身近な人にインタビューしながら学区の今昔による変化を調べる。
2 学期			
9月15日	I 課題設定	今と昔の違いから見つめる、新香山の自然の変化②	○夏休み中に行った、新香山今昔から違いを見つける ○学区の自然環境が抱える課題を見つける
9月29日	II 情報収集	地域の方から学ぶ、新香山の自然の変化	○地域に住む秋元さんから、新香山の自然の変化を学ぶ ○5つの視点から見つめ直す
10月6日	III 整理・分析	自分が調べたい事を調べ交流する中で、それぞれの自然は関わり合っていると知る。	○PCルームやタブレット機器を使って、個人・グループ・学級へと考えを広げ、深めていく。
10月19日	III 整理・分析	自然保護の考えを尊重しながらも、開発の必要性も受け入れ、共生社会を創造する	○自然保護派と、開発推進派で討論し、その後思考ツール弁論を用いて、考えの共有を図る。（共生社会）
10月27日	IV まとめ・表現	共生の考え方を身につけ、学区の自然体験の森にて、環境プログラムを受ける。	○話し合いの中で出てきたキーワードを基に、自分たちの考えをさらに深めるために、マイテーマに「共生」の視点を加え、もう一度調べ学習をする。その後、B4サイズにまとめる。
11月10日	IV まとめ・表現	話し合いや、自然体験の森の経験をもとに、自分の調べに共生の視点を加える。	○再び秋元さんを招き、ポスターセッションによる報告受け、更に学びを深めるための考えを教えていただく。
11月17日	IV まとめ・表現	自分たちの学級で調べたことをもとに、未来を創っていくまとめを発表する。	
11月24日	II 情報収集	日浅さんから獣害問題について学ぶ	○獣害問題が抱える被害の深刻さと命を奪うことについての考えを学ぶ。
12月1日	III 整理・分析	日浅さんの話から考えた事を意見交流する	○日浅さん話から考えたことをまとめ、学級内で話し合いを深める。
12月8日	IV まとめ・表現	パフォーマンステスト実施	○2学期までの学びが振り返れるようなパフォーマンステストを用意する。
12月15日	I 課題設定	今昔調べを根拠に、新香山学区の自然に目を向け自我関与させる。	○今昔調べから自我関与した生徒が話し合い、新香山学区に私ができることを考える。（ササユリ活動）
3 学期			
1月12日	II 情報収集	「ササユリ」を保護するために、まずササユリの生態について徹底的に調べる	○PCルームやタブレット機器を使って、個人・グループ・学級へと考えを広げ、深めていく。
1月19日	II 情報収集	地域の方から、ササユリの保護活動について学ぶ。	○ササユリの保護活動をボランティアで続けている方をお招きして考えを深める。
1月26日	III 整理・分析	調べや講話を聞いて、自分が、そして学級、学年・学校が何をしたいか整理する。	○自我関与させたのちに、行動化させるためのササユリサミットを開く。
2月2日	III 整理・分析	後世に伝えたいササユリへの想いをまとめ、ポスターセッションの準備をする。	○新香山学区が続いているササユリ活動に触れ、自分が後世に何を伝えたいかをまとめる。
2月9日	IV まとめ・表現	ササユリ保護活動に取り組む感想をワークシートにまとめる	○ササユリの下草がりをを行い、保護活動を実際にやってみる。感想をワークシートにまとめる。
2月23日	I 課題設定 II 情報収集	卒業を祝う会の準備を通して、先輩から受け継ぐ愛校心をかたちにする。	○卒業を祝う会や卒業式に向かう先輩の姿から、受け継がれる環境学習への思いや伝統に気付く。
3月13日	III 整理・分析	自分たちが何を学び、何を伝えたいのか学級で話し合う。	○卒業行事に触れ、上級生に進むにあたり、自分が何を後世に伝えたいのかを話し合う。
3月16日	IV まとめ・表現	パフォーマンステスト実施	○今年度の学びが振り返れるようなパフォーマンステストを用意する。

## 【2年生総合的な学習の時間 年間計画】

「低炭素社会実現の在り方を考える」			「働くことの意義を考える」	
実施月	学びのサイクル	主な学習内容	学びのサイクル	主な学習内容
4月	Ⅰ 課題設定	○1年時の学びの振り返り ・生態系が崩れている要因		
5月			○地球温暖化の世界と日本の現状の把握	Ⅰ 課題設定
	Ⅱ 情報収集	○発電方式の追究	Ⅱ 情報収集	○職業調べ
		・ネット検索		・ネット検索&DVD視聴
		○発電所の見学（社会見学）		・親の職業観調査
		・火力発電，原子力発電，太陽光発電		○ゲストティーチャーの講話
		・風力発電		・車のデザイン ・介護福祉士
6月	Ⅲ 整理・分析	○A3色画用紙への見学のまとめ		○事業所決め
		○DVD教材の視聴		○事前訪問活動計画の立案
				○事業所への電話依頼の仕方
7月	Ⅳ まとめ・表現	○将来の日本の発電方式プランの立案		○事前訪問
		○学級単位での意見交流会		
8月	Ⅰ 課題設定	○事業所の低炭素社会実現の取り組み調査	Ⅲ 整理・分析	○職場体験（原則3日間）
9月		○事業所における取り組みの把握		○A3色画用紙へのまとめ
		○エコカーの現状把握	Ⅳ まとめ・表現	○職場体験学習報告会
10月	Ⅱ 情報収集	○エコカーの現状の追究活動		
		・ネット検索 ・親への意識調査		
		・ディーラーや関係機関への聞き取り		
		○自動車メーカーの講話		
		・三菱自動車開発部		
11月	Ⅲ 整理・分析	○追究活動のまとめ	Ⅳ まとめ・表現	○文化祭で成果の報告（展示方式）
	Ⅳ まとめ・表現	○エコカー普及についての意見交流会		
12月	Ⅰ 課題設定	○1年時のエコ活動の振り返り		
		○岡崎市の二酸化炭素排出量の現状把握		
	Ⅱ 情報収集	○エコチャレンジプランの立案		
1月	Ⅲ 整理・分析	○エコチャレンジの実施（冬休み期間）		
		○エコチャレンジシートへのまとめ		
		・二酸化炭素削減量の数値化		
2月	Ⅳ まとめ・表現	○エコチャレンジの成果と課題についての 意見交流会		
3月		○低炭素社会実現にむけての将来の自分の 取り組み案の作成		
		○取り組み案の報告会		



# 【3年生総合的な学習の時間 年間計画】

「持続可能な地球・地域をつくるために私たちができること」			
実施月	学びのサイクル	「環境学習」に関する学習内容	「環境学習」以外の学習内容
1 学期			
4 月	I 課題設定		○修学旅行班別学習の班決めを行う。 ○班別学習の課題と研修先を決定する。
5 月	II 情報収集		○研修先への行程を調べる。 ○東京ワンデーフリーの計画を立てる。
5 月	II 情報収集		○研修先で何を学ぶのか、何を見てくるのか班で話し合い、調べる。
5 月	III 整理・分析		○しおり製本 ○学年集会で、旅行先での心構えやマナーの確認をする。
6 月	III 整理・分析		○研修先での学びを B 4 サイズの壁新聞にまとめる。
6 月	IV まとめ・表現		○まとめた壁新聞を基に、学級内で発表会を行い、意見交流をする。
6 月	I 課題設定	○昨年度の学びを振り返り、今年度の計画を立てる。	
6 月	I 課題設定 II 情報収集	○2 年時に活動した 4 つのグループ「学区清掃」「北斗川」「ユニクロ」「ササユリ」に分かれ、活動計画を立てる。	
7 月	II 情報収集	○個人が夏休みに行う活動を考える。	
6 月			●夏休みに行われる高校体験入学について学年集会で確認する。
2 学期			
10 月	III 整理・分析	○地域とつながりながら、自分たちができることを各グループで考え、実行する。	
11 月	IV まとめ・表現	○自分たちの活動についてポスターセッションで学年に発表する。	
11 月	IV まとめ・表現	○それぞれのグループの発表を聞いて、自分にできることを考え、ワークシートにまとめる。	
12 月	I 課題設定 II 情報収集		○3 年間の学びを卒業文集にまとめる。
3 学期			
1 月	III 整理・分析	○卒業後も続けていくエコ活動や、地域のためにできることを話し合う。	

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16.ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 対象を自分事として捉え、主体的・対話的に学ぶ )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○ 守ろう地球の宝物～豊かな自然編～
--------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

○総合的な学習の活動に位置づけながら活動に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内に、新たな部会を立ち上げて取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内の教育活動アンケートを通して、学校評価を実施。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール活動報告会に参加し、取り組みを報告。また、この会に参加したことにより、新たなつながりができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

○中部大学から活動発表の機会を頂いた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今後広げていきたいと考えている。



- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

活動報告会に参加した生徒は、自分たちの取り組みに自信を持つようになった。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度までの取り組みにプラス1を加え、マイナーチェンジを加えていきながら、新たな取り組みを考えていきたい。